

■義堂周信 禅僧。学徳当代一で尊崇を集め、絶海中津と五山文学の双壁、中国人が自国人の作と思ったほどの詩作。

ぎどうしゅうしん
..... 1325=

後に絶海中津をも生むことになる土佐国高岡郡で生まれる。

元弘の乱・・・1331= 6歳： 生地の松園寺で「法華経」を学び、
..... 1332= 7歳： 「臨濟録」を読むほどの神童ぶり、
鎌倉幕府滅亡1333= 8歳：
二条河原落書1334= 9歳：

南北朝分裂・1336=11歳：

後醍醐天皇没1339=14歳： 比叡山に登って受戒し、
土佐に戻って台密を学んだ後、
..... 1341=16歳： 叔父によって早くから知っていた夢窓疎石に上洛して師事し、周信の法諱をもらう。
..... 1343=18歳：

..... 1347=22歳： 中国禅僧の五言・七言絶句を編集した「貞和集」を出すほど、詩への造詣も深く、

..... 1351=26歳： 師夢窓疎石が死去したため、前年45年ぶりに中国から帰ってきた建仁寺の龍山徳見に師事、
観応の擾乱終1352=27歳：

足利尊氏死・1358=33歳： 師龍山徳見が住持の天竜寺が炎上すると、復興のため土佐に材木を買いに行き、材木載せた船が海賊に襲
われるも、見事に取り返して京に戻り、
..... 1359=34歳： *春屋妙葩の命で鎌倉に赴き、公方足利基氏に夢窓疎石の塔所円覚寺黄梅院に配され、
..... 1361=36歳：
この間、足利基氏の帰依を得、身分や立場を超えて親交、
この間、熱海へ出かけて以降、生涯度々湯治に行く。

..... 1366=41歳： 前年に母が死去したことを知り、喪に服し、以後度々供養。相模国諸山善福寺の主となる。
細川頼之管領1367=42歳： 足利基氏が円覚寺を訪れて仏舍利を開封礼拝後封印という特別なことをし、まもなく死去。
足利義満將軍1368=43歳： 前年死去した2代將軍足利義詮の分骨を浄妙寺に迎える。
..... 1369=44歳： この年の日記に、自分の詩が“自国人の作と思った”と中国人に絶賛されたと記す。

了俊九州探題1370=45歳：

..... 1371=46歳： 鎌倉保寿寺の住持となり、
応安新式・・・1372=47歳： 鎌倉詫間谷に、*報恩護国寺を建立した上杉氏に請われてこの開山始祖となる。

観世父子登場1374=49歳： 円覚寺が建長寺門徒の放火で炎上すると、幕府から派遣された此山妙在とともに復興に当り、

高麗倭寇激化1376=51歳： 仏殿の立柱にこぎつける。
この間、反幕的になって行く2代鎌倉公方足利氏満と関東管領上杉氏との間を取持つが、

室町御所・・・1378=53歳： 円覚寺黄梅院に再任となり、
義満親政始・1379=54歳： 康暦の政変となり、京都に戻って天下僧録司となった春屋妙葩の斡旋で、
..... 1380=55歳： 帰京して建仁寺・等持院に住すると、將軍足利義満の信頼を受け、顧問的役割を果たし、
五山の繁栄・室町文化形成にも大きな影響を及ぼす。

義満全權掌握1382=57歳： 義満の新寺創建構想に春屋とともに参与し、相国寺建立が決定し、
義満准三后・1383=58歳： 春屋門人と龍湫門人の対立の怒りを義満にぶつけられると、両者を和睦に導いて、怒りを解く。
在京中もたびたび有馬に湯治に行く。

..... 1385=60歳： *相国寺落慶供養の導師となる。南禅寺第44世住持になる。
南禅寺別格・1386=61歳： 義満が相国寺を五山に加えることとしたため、これ以降、南禅寺は五山の上に置かれた。
その後、東山観持庵に住み、常在光寺に移り、南禅寺に慈氏院を建て、
周信+良基没 1388=63歳： 最後の湯治を終えて京都に戻り、没した。
著作に「語録」「空華集」「東山空和尚外集抄」「禅儀外文集抄」などがある。